戦後沖縄における
孔子廟再建・釈奠復興と台湾









①釈奠の祭品（正位）　②台湾側から贈られた扁額（孔子神位上方）
③台湾側からの神位寄贈（中琉文化経済協会1989『中華文化在琉球』156頁より引用）　④孔子像（那覇商工会議所隣）　※①②④は石垣氏による撮影

2026.

12.5（土）

入場無料

14:00～16:00
（開場 13:30）

琉球における至聖廟（孔子廟）と釈奠（孔子祭）の歴史は17世紀に遡る。至聖廟とそれに附属する明倫堂（琉球最初の学校）は1944年の十・十空襲で灰燼に帰したが、久米村の末裔らが組織する久米崇聖会は、1975年1月に廟を再建し釈奠を挙行した。

実は、この至聖廟再建と釈奠復興には、台湾側からの強力な支援があった。そこにはどのような背景があったのか。台湾と沖縄をまたぐ調査をもとに、現代の至聖廟・釈奠にもみられるその影響を探る。

【キーワード】
#孔子廟　#孔子祭　#至聖廟　#釈奠　#至聖廟再建　#釈奠復興　#琉球　#台湾

講　師　石垣 直 氏（沖縄国際大学総合文化学部　教授）

会　場　3階　講堂

受　付　当日先着（定員200席）

お問合せ　098 - 941-8200

主　催　沖縄県立博物館・美術館



【講師】石垣 直（いしがき なおき）沖縄国際大学総合文化学部　教授

石垣島出身。沖縄国際大学総合文化学部社会文化学科教授。2016年より現職。文化人類学を基盤に、台湾原住民族の土地権回復や言語文化復興の歴史・現状・課題を明らかにしてきただけでなく、琉球・沖縄の歴史と文化、とくに那覇市久米の至聖廟（孔子廟）で挙行される釈奠（孔子祭）について、東アジア諸地域の事例を視野に入れた研究を続けている。
単著に『現代台湾を生きる原住民 - プヌンの土地と権利回復運動の人類学』（風響社、2011）、論文に「琉球・沖縄における釈奠の歴史と現在 - 久米・至聖廟の事例を中心に」（『南島文化』41号、2019）などがある。

※駐車場の混雑が予想されますので、公共交通機関のご利用をお願いいたします。
※席数に限りがあり、ご入場いただけない場合がございます。
※会場内は空調の影響で寒くなる場合があります。